
真・恋姫†無双 OROCHI

フォン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真・恋姫†無双 OROCHI

【Nコード】

N7044Y

【作者名】

フォン

【あらすじ】

初めて小説書きます…

一刀と及川の親友であるオリ主が遠呂智になって恋姫世界で頑張るお話

主人公陣営には恋姫で登場しなかった史実の有名な将をガンガン入れていきます
めざせ、完結！

海藤遊星（前書き）

本文書くより投稿することの方がくせ者

この小説には

オリジナル要素

少しのキャラ崩壊

が含まれます

ご注意ください

海藤遊星

「……………はあ」

俺は海藤遊星。聖フランチェスカ学園に通ってるただの学生さ
親友の一刀みたいにエロゲにいそくなイケメンな面はしてねーし
及川みたいにキャラが濃い訳でもネエ

俺が勝てんのは学力と身長だけだ

……………ルックスエ…

でだ。

今俺はガキににらまれてビビってるのさw
なんつーか、ガキの周りの気が全然ちげえ…
めんどくせえ…

「まあ、いいだろう…」

ガキが呟いたのと同時に俺の視界は何も見えなくなった…

ゆうせいは めのまえが

まっくらに なった

……………レポートしてぬえ…

「……………起きろっ！」

ぐはっ！

「起きたな（物理）」

「いいなあ…左慈に蹴られるなんて…」

腹部に痛みを孕みながら身体を起こす俺

目の前にはあの時のガキ

そしてもう1人誰かいるな…

とりあえず

ここ…どこだ？

邂逅、左慈と于吉

やあやあ、遊星だよ

いま俺がいるのは

地面が透明、空は不思議な色合いをしている亜空間とも言つべき所か

…ゼロ時間かよ…

まあ、それよりもだ

「俺は左慈。そしてこいつが「左慈の永遠の恋びとあべっ！」于吉だ」

美しい裏拳を決めながら自己紹介をした左慈

5

えと…俺は海藤遊星

とりあえず自己紹介

「遊星、貴様、北郷一刀は知ってるな？」

「ああ、一刀は俺の親友だてか、待ってくれ！

ここはどこだ？あんたら左慈と于吉って言ったよな？それって三國志のあのか？いやいやいや…まさかゲームや小説でもあるまいし…」

「うるさいやつだな…」

左慈がぼやく

「まあまあ左慈。遊星はなかなか頭がきれる人間です。私が言葉で納得させますから、殴るのは私だけにしてください」

そう言うと于吉が俺の目の前に飛んできた

蹴られたのか…

「ハア 左慈ったら激しいんですから。さて遊星、あなたの質問に答えましょう。私達はあの左慈と于吉です。ただし、三國志の平行ワールドで、のですがね。」

平行ワールド!?

たしか平行世界だかi fの世界のことだよな…

「話を続けますね。その平行三國志に北郷一刀がイレギュラーとして入ってしまったのですよ
それによって史実と違う結末で魏が統一してしまうのですよ。」

一刀なにやってんだ…

史実と違う結末…?

「例を挙げれば、赤壁の戦いで曹操が負けず、そのまま天下統一します。」

は？

赤壁つちゃあ映画にもなる大決戦だよな

史実と、違う未来か

「一刀のせいだ」

「そこで貴方に、歪んだ歴史を戻して欲しいのです。分かりますか？」

なるほど、だから俺はここにいます

「俺に！？どうすりゃいいんだ！仮に方法あっても、俺なんか出来るわけないって！」

正直、こういう異世界召喚モノは大好きだ

けど、自分が主人公でだなんて、無理に決まってる。

「わかってますよ。あなたに乱世を生き抜く力がないことぐらい。

北郷一刀は主人公補正なるもので運良く曹操に助けられ、常に周りには彼を慕う人物に溢れていました。が、貴方は未知数。どうなるかは私達も知りません。なので貴方に力をあげましょう。」

「……………」

俺は黙ってしまった。

俺の中の好奇心が今爆発している。アドレナリンが湧き出ている。オラ、ワクワクしてきたぞ！

「この話、受けますよね？」

「……………受けるよ」

俺はそう言った

信じられない話だな

「よかった。あなたが受け入れるまで帰さないつもりでしたから。私としても左慈との愛の空間に遊星がいても邪魔でして。それでは左慈、仕上げdあべしっ!」
「死ねっ!」

また于吉が飛んでいった

「さて遊星、行くからには相応の覚悟が必要だが、分かってるか？」

うん…これから行くのは血の臭いがする見知らぬ世界

「分かっているッ!」
力強く言った

「ふん…その覚悟、本物であるかどうか…確かめさせてもらうぞ」

俺の目の前に青竜刀が現れた!

ええええええええ

これが仙術かよ

チート乙

そして目の前に1人の兵士

そいつを、倒してみる

左慈はそう言ったんだ…

やるべきことは

「ま、こうなるか…」

兵士が剣を振りかざし突撃してきた！

青竜刀を手取る。

ひんやりとした金属の感触うつ…生々しい

「けどさっ！」

兵士の剣が振りおろされる

見切ったア！

身体を右へ反らし

切り裂く！

青竜刀が兵士の顔を薙ぐ

兵士はそのまま倒れた

「ふう」

チュートリアルでの戦闘でなんか、負けてられねーっつの

「ほう、お前人を殺すことに躊躇しないのか」

左慈が少し驚いた様子で口を開く

「ん？ま、いい気分じゃあねーが、そこんところは割りきらねーとや
つてらんねーだろ？一刀は剣を持たなかつたのか？」

戦国の世で剣をもたないなんてそんなわけ…

「あいつは直接人を殺めたことはない」

「竹刀なら黄巾のやつらに向けましたね。」

于吉おかえり…

一刀は優しいから流石だといいたいが…

甘いぞ一刀！

リバーズカードをオープンしそうだ

「于吉、遊星なら能力をやっても大丈夫か」

「そうですね。遊星なら大丈夫でしょう。」

お？ついにか！？

キター（。。。！）

「遊星、あなたに能力を差し上げましょう。どれがいいですか？」

？公孫淵

？金旋

？淳于瓊

？曹爽

うわあ…

凡愚しかいねええええええwwww
つか能力をくれるんじゃないかって憑依じゃねーか…

「嫌だっ！司馬懿に「滅せ…」とかいわれたくない！
金旋…はまあ性格俺ならなんとかなる…かもじゃなくて、地味すぎる！

烏巢で焼かれたくない！つかさせねえ！袁紹に訴えてやる！！あ、でも袁紹って優柔不断なんだっけ…
曹爽とかもう赤壁より全然後じゃねーか！何より凡愚だろあいつ！

(その時遊星に電流走る)

そつだ遠呂智にしてくれ！今考えついた！

「今の選択肢は冗談ですよ。マジレス乙ww」

イラッ (^ ^ #)

「とまあ、遠呂智ですか？いいですけど、大変ですよ？では…」
「ふうっ！」

左慈と于吉が俺に術をかけているのだろう。体が青く燃えだした。なにこれこわい

青い炎が体を燃やし尽くしたと思ったら、
「うお！？」

体から力が湧いてくる。

炎が消えてゆくのと同時に俺の体に鎧、兜、脛あてなどが現れる。
すべての炎が消えた。
そっと目を開く。

「すっげえ…」

俺はまさしく遠呂智になっていた。俺自体が変わってるのは、気と
いうか、体から感じる力だけか。肌もグレーになってないし。于吉
が鏡を出した。お！オッドアイになってる！俺カッコイイ！

足元には遠呂智の武器 死神鎌「焦喚」が置かれている。

「さて、あとは乱世であなたが歴史を正せばよいだけです。」

「おう。具体的には何をすればいいんだ？」

「そんなの決まってる。」

左慈がだるそうに言う

「北郷一刀を…消せ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7044y/>

真・恋姫†無双 OROCHI

2011年11月24日00時47分発行